



平成27年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年10月27日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 不二家

コード番号 2211 URL <http://www.fujiya-peko.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 櫻井 康文

問合せ先責任者 (役職名) 常務執行役員 総務人事本部長 (氏名) 中島 清隆

TEL 03-5978-8128

四半期報告書提出予定日 平成27年11月9日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年12月期第3四半期の連結業績(平成27年1月1日～平成27年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年12月期第3四半期	73,186	1.4	△696	—	△641	—	△1,575	—
26年12月期第3四半期	72,142	11.2	△866	—	△561	—	△1,315	—

(注) 包括利益 27年12月期第3四半期 △1,107百万円 (—%) 26年12月期第3四半期 △1,006百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年12月期第3四半期	△6.11	—
26年12月期第3四半期	△5.11	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年12月期第3四半期	55,500	28,431	49.0
26年12月期	62,242	29,158	45.0

(参考) 自己資本 27年12月期第3四半期 27,173百万円 26年12月期 27,998百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年12月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年12月期	—	0.00	—	—	—
27年12月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年12月期の連結業績予想(平成27年1月1日～平成27年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	106,000	1.8	1,400	57.8	1,600	36.9	500	—	1.94

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(注)詳細は、添付資料5ページ「2. サマリー情報(注記事項)に関する事項(3)会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示」をご覧ください。

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

27年12月期3Q	257,846,590 株	26年12月期	257,846,590 株
27年12月期3Q	85,518 株	26年12月期	83,093 株
27年12月期3Q	257,762,337 株	26年12月期3Q	257,763,610 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P4「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	5
3. 四半期連結財務諸表	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間(平成27年1月1日～9月30日)のわが国の経済は、雇用・所得環境の改善傾向が続く中で、原油価格下落の影響等もあり、企業収益に改善が見られ、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、中国をはじめとする海外景気の下振れ懸念などにより、景気の先行きについては不透明感が払拭できない状況で推移しました。

当社グループが属する食品業界におきましては、円安と新興国の需要増による輸入原料価格の高止まりが製品価格の引上げを招く一方、消費者の節約志向は依然として根強く、厳しい経営環境となりました。

このような環境の中で当社グループは、すべての製品を安全に、安心して召し上がっていただけるよう事業の基盤となる食品安全衛生管理体制の強化を第一に取り組みました。洋菓子事業におきましては、主力製品の品質改善や品揃えの拡充などを実施し、既存の洋菓子チェーン店の売上回復につとめました。製菓事業におきましては、単体菓子において、原料価格高騰に対応した規格改定が影響し、主力製品の売上確保に苦戦していましたが、商品力アップと適確なマーケティング活動を行った結果、売上は着実に回復してまいりました。また、中国事業につきましては引き続き好調に推移しました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、731億86百万円(対前年同期比101.4%)と前年同期の実績を確保することができました。

損益面では、第1四半期連結会計期間におきまして、洋菓子事業における既存店と国内菓子事業の売上が減少したことにより収益は悪化しましたが、第3四半期連結会計期間において、国内菓子事業の収益が改善したことに加え、好調な中国事業の増益にも支えられ、営業損失は6億96百万円(前年同期は8億66百万円の営業損失)と前年同期に比べ改善しました。しかしながら、持分法適用関係会社の業績悪化が影響し、経常損失は6億41百万円(前年同期は5億61百万円の経常損失)、四半期純損失は15億75百万円(前年同期は13億15百万円の四半期純損失)となりました。

当社グループのセグメントの概況は次のとおりであります。

		当第3四半期連結累計期間		前第3四半期連結累計期間		対前年同期比	増減
		平成27年1月1日から平成27年9月30日まで		平成26年1月1日から平成26年9月30日まで			
		売上高	構成比	売上高	構成比		
洋菓子事業	洋菓子	百万円 21,235	% 29.0	百万円 20,772	% 28.8	% 102.2	百万円 463
	レストラン	5,132	7.0	5,447	7.5	94.2	△314
	計	26,368	36.0	26,219	36.3	100.6	148
製菓事業	菓子	41,674	56.9	40,580	56.3	102.7	1,093
	飲料	3,939	5.4	4,155	5.7	94.8	△216
	計	45,613	62.3	44,736	62.0	102.0	876
その他		1,204	1.7	1,186	1.7	101.5	18
合計		73,186	100.0	72,142	100.0	101.4	1,043

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

<洋菓子事業>

当社単体の洋菓子におきましては、原料価格高騰による価格改定と消費増税の影響により、低迷した既存店売上の回復が重要課題となりました。その対策として、北海道産純生クリームを使用したシュークリーム「金と銀」をはじめ、品質を徹底的に追求した新製品の開発とその拡販に取り組みました。また、8月には高品質でボリューム感があるシフォンケーキ「シフォン主義」をお買い求めになりやすい価格で発売するなど商品力のさらなる強化に取り組み、既存店売上の回復につとめました。しかしながら、9月の天候不順の影響などもあり客数が伸び悩み、前年同期の売上を確保するには至りませんでした。

店舗開発につきましては、集客力のあるショッピングセンター内を中心とした新規出店やスイートガーデン店舗の不二家店舗への移管を推進する一方で、不採算店などを閉店したこともあり、当第3四半期連結会計期間末店舗数は、977店（前年同期差19店増）となりました。

コンビニエンスストアをはじめとする広域流通企業との取り組みにつきましては、収益性を重視したアイテムに絞り込んだこともあり、売上は前年同期を大きく下回りました。

前年4月に子会社化した(株)スイートガーデンにつきましては、自社チェーン店への販売以外に、不二家店舗や山崎製パンルートでの販売、さらにはグループ外への販売にも取り組むなど、経営基盤の確立に向けた事業経営を進めております。

高級フランス菓子を製造、販売しているダロワイヨにつきましては、2月に開店した「アトレ目黒店」の売上が寄与したことに加え、夏季対策としてアイスクリーム及びソフトクリーム店頭販売を実施したことや、主力製品であるマカロンにおいて、8月下旬に「丹波栗」など季節の素材を先取りした新製品4品の販売が好調に推移したことなどもあり、前年同期の売上を確保することができました。

この結果、ケーキ等の洋菓子類の売上高は、(株)スイートガーデンの連結寄与もあり、212億35百万円（対前年同期比102.2%）となりました。

家族団欒の場としてご利用いただいているレストランにつきましては、原料価格高騰や人件費増への対策としてメニューの絞り込みを行ったことなどにより客数が減少しております。その回復を目指し、アンケートによりお客様の声を取り入れ、メニューを充実させるとともに、「ポイント5倍デー」の実施日を増やすなど、再来店を促す施策にも取り組みました。しかしながら、新規店舗の売上が計画に届かず、加えて店舗数減の影響もあり、レストランの売上高は、51億32百万円（対前年同期比94.2%）となりました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における洋菓子事業全体の売上高は、263億68百万円（対前年同期比100.6%）と増収になりましたものの、損益面では厳しい状況となりました。

<製菓事業>

当社単体の菓子におきましては、原料価格高騰に対応して徳用大袋製品を中心に減量などの規格改定を実施したことや、販売促進費の抑制をはかったこともあり、これら製品の売上確保に苦戦しました。そのような中で、主力ブランドである「カントリーマアム」につきましては、増強した生産設備を活用して生産の効率化をはかる一方で、ブランドを活用した新製品を展開し、一層の競争力強化に取り組みました。また、「ホームパイ」につきましては品質の改善に加え、増量した製品を発売し、大袋製品の売上回復につとめました。さらに9月には、拡大しているハロウィン市場に向けた製品を積極的に発売することにより、ファミリー向け製品の売上拡大をはかりました。その結果、苦戦しておりました売上を着実に回復させることができました。

中国において菓子の製造、卸売を行っている不二家（杭州）食品有限公司につきましては、主力製品である「ポップキャンディ」がテレビCMにより、認知度がさらにアップしたことや、結婚式等における贈答品の需要が拡大したことにより、大きく売上を伸ばすことができました。また、売上増に伴う生産面での人員不足には、前期に導入した自動化設備により対応することができました。

この結果、菓子の売上高は、416億74百万円（対前年同期比102.7%）となりました。

飲料におきましては、8月に発売したネクターの期間限定製品「こだわり巨峰ミックス195gカート缶」の販売は好調に推移したものの、主力製品である「ネクターピーチ350g缶」が、消費増税の影響を大きく受けている自販機販売を主要販売ルートとしていることから、販売が低調に推移しました。

この結果、飲料売上高は、39億39百万円（対前年同期比94.8%）と前年同期を下回りました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間における製菓事業全体の売上高は、456億13百万円（対前年同期比102.0%）となり、損益面におきましても前年同期を上回る利益を確保することができました。

<その他>

その他事業のうち、通販・キャラクター事業につきましてはグッズ、アパレルメーカーからのライセンス収入が伸び悩み、厳しい状況となりましたが、株式会社不二家システムセンターの受注請負、データ入力サービスなどの事務受託業務が増加し、その他事業の売上高は12億4百万円（対前年同期比101.5%）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産、負債、純資産の状況は以下のとおりであります。

流動資産は247億20百万円で、主に売掛債権やたな卸資産の減により前連結会計年度末に比べ63億34百万円減少いたしました。固定資産は307億80百万円で、主に投資有価証券の減により、前連結会計年度末に比べ4億7百万円の減少となりました。

この結果、総資産は555億円で前連結会計年度末に比べ67億41百万円減少いたしました。

また、流動負債は185億27百万円で、主に仕入債務の減により前連結会計年度末に比べ45億12百万円減少いたしました。固定負債は85億42百万円で、主に長期借入金の返済により前連結会計年度末に比べ15億2百万円減少いたしました。

この結果、負債は合計270億69百万円で、前連結会計年度末に比べ60億14百万円減少いたしました。

純資産は284億31百万円で、主に四半期純損失の計上により前連結会計年度末に比べ7億27百万円減少いたしました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成27年12月期の業績予想につきましては、平成27年7月29日に発表した予想の変更はありません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更し、割引率の決定方法を従業員の平均残存勤務期間に近似した年数に基づく割引率から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る資産が163百万円増加し、退職給付に係る負債が383百万円減少し、利益剰余金が547百万円増加しております。なお、当第3四半期連結累計期間の営業損失、経常損失及び税金等調整前四半期純損失に与える影響は軽微であります。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,191	10,132
受取手形及び売掛金	13,709	8,512
商品及び製品	3,365	2,839
仕掛品	334	349
原材料及び貯蔵品	2,520	2,367
繰延税金資産	179	192
その他	1,040	734
貸倒引当金	△287	△408
流動資産合計	31,054	24,720
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	6,926	6,734
機械装置及び運搬具（純額）	8,208	8,172
土地	3,711	3,689
リース資産（純額）	1,448	1,473
その他（純額）	606	671
有形固定資産合計	20,900	20,742
無形固定資産		
のれん	445	403
その他	321	347
無形固定資産合計	766	751
投資その他の資産		
投資有価証券	5,953	5,791
繰延税金資産	158	123
敷金及び保証金	2,778	2,666
退職給付に係る資産	-	157
その他	771	668
貸倒引当金	△141	△120
投資その他の資産合計	9,520	9,286
固定資産合計	31,188	30,780
資産合計	62,242	55,500

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成27年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7,682	5,911
短期借入金	4,903	4,620
1年内償還予定の社債	494	516
リース債務	465	457
未払金	5,562	3,816
未払法人税等	436	289
賞与引当金	292	654
店舗閉鎖損失引当金	10	1
その他	3,192	2,260
流動負債合計	23,039	18,527
固定負債		
社債	1,311	900
長期借入金	4,166	3,645
リース債務	1,122	1,166
繰延税金負債	148	102
退職給付に係る負債	2,121	1,818
長期未払金	482	237
その他	690	672
固定負債合計	10,044	8,542
負債合計	33,084	27,069
純資産の部		
株主資本		
資本金	18,280	18,280
資本剰余金	4,065	4,065
利益剰余金	5,281	4,253
自己株式	△15	△15
株主資本合計	27,612	26,583
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	113	184
繰延ヘッジ損益	35	△9
為替換算調整勘定	596	542
退職給付に係る調整累計額	△359	△126
その他の包括利益累計額合計	386	590
少数株主持分	1,160	1,257
純資産合計	29,158	28,431
負債純資産合計	62,242	55,500

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
売上高	72,142	73,186
売上原価	39,774	39,762
売上総利益	32,368	33,423
販売費及び一般管理費	33,234	34,120
営業損失(△)	△866	△696
営業外収益		
受取利息	28	43
受取配当金	92	33
持分法による投資利益	209	6
その他	181	115
営業外収益合計	511	198
営業外費用		
支払利息	95	88
社債発行費	25	-
その他	85	55
営業外費用合計	206	143
経常損失(△)	△561	△641
特別利益		
固定資産売却益	0	37
特別利益合計	0	37
特別損失		
固定資産廃棄損	77	123
投資有価証券評価損	0	-
店舗閉鎖損失引当金繰入額	-	1
災害損失	12	-
特別損失合計	90	125
税金等調整前四半期純損失(△)	△651	△730
法人税、住民税及び事業税	490	617
法人税等調整額	△10	△57
法人税等合計	480	559
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,132	△1,290
少数株主利益	183	285
四半期純損失(△)	△1,315	△1,575

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成26年1月1日 至平成26年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成27年1月1日 至平成27年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,132	△1,290
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	77	69
為替換算調整勘定	36	△76
退職給付に係る調整額	-	233
持分法適用会社に対する持分相当額	10	△43
その他の包括利益合計	125	182
四半期包括利益	△1,006	△1,107
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,200	△1,371
少数株主に係る四半期包括利益	194	263

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成26年1月1日至平成26年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	26,219	44,736	70,956	1,186	72,142	—	72,142
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	587	587	516	1,104	△1,104	—
計	26,219	45,324	71,544	1,702	73,247	△1,104	72,142
セグメント損益(△は損失)	△788	1,944	1,156	108	1,264	△2,131	△866

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。

2 セグメント損益(△は損失)の調整額△2,131百万円には、固定資産減価償却費の調整額9百万円、のれんの償却費の調整額△74百万円、その他の調整額7百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,074百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。

3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成27年1月1日至平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	洋菓子事業	製菓事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	26,368	45,613	71,982	1,204	73,186	—	73,186
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	579	579	513	1,093	△1,093	—
計	26,368	46,193	72,561	1,718	74,279	△1,093	73,186
セグメント損益(△は損失)	△1,442	2,887	1,445	22	1,467	△2,164	△696

- (注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、キャラクターグッズ等の通信販売、ライセンス事業、不動産事業及び事務受託業務等を含んでおります。
- 2 セグメント損益(△は損失)の調整額△2,164百万円には、固定資産減価償却費の調整額7百万円、のれんの償却費の調整額△40百万円、その他の調整額3百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△2,134百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費に係る費用であります。
- 3 セグメント損益(△は損失)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。